

やまがたコンシエルジュサービス

やまがたで学ぶ

やまがたを学ぶ

やまがたに学ぶ

旧町人町の中心にあって、新しいコミュニケーションを創り、コミュニティを再生する場に、育ちゆく「まなび館」

なぜ「やまがた」なのか？

- ・災害のすくない立地
- ・他世代交流に抵抗の少ない土地柄
- ・常用・非常時にもコミュニティ活躍の街頭放送
- ・再活用できる古いモノ・コトが残っている
- ・日本の伝統文化・芸能・道教が残っている
- ・山形ならではの保存食文化（干物・乾物）
- ・山形で成長を続ける発酵食文化（漬物・酒類）

こんなリノベーションがしたい！



文翔館



紅の蔵



文翔館

まなび館

紅の蔵

やまがた的価値とは？

山形の「老舗率」は京都に次いで全国2番目である。これには山形の粘り強い気質があるという見方もあったが、その点は東北人に共通している。むしろ、山形という場所が災害の少ない立地であったこと、それにより「暮らし」の変化がゆっくりであったことがあるだろう。
現在でも、親との同居率は全国で最も高く、共働き率は全国最高。つまりは、2世代、3世代で暮らす昔ながらの家庭が多いと言える。さらに、平均睡眠時間も全国4位で、1位の青森と6分差。
このように、山形には、「都会」「グローバル」と一線を画した価値が、単なる言葉ではなく根付いている。

新しいコニュにエーションで、「何」伝えるのか？



山形まなび館とは

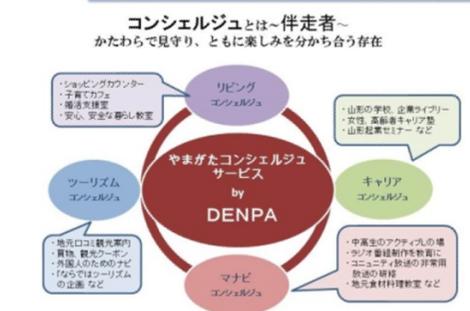
山形市立第一小学校の旧校舎であるが、昭和2年1927年に竣工された初期鉄筋コンクリート造の建築物。
歴史的価値が認められ、国の「登録文化財」に指定されているが、その大きさと、小割りの教室群という構成のため、現在は3階建の1階のみ使用されている。
また、現第一小学校とのある芝生の中庭は活用されていない。

「こんなものがまだある?!」

- 料亭**
 - ・伝統と特徴
 - ・舞妓・芸子
- 作法**
 - ・食料・料理法
 - ・器・取合わせ
- 舞妓**
 - ・発音舞台
 - ・練習場



山形市内には料亭6件が残る



やまがたコンシエルジュサービスの拠点に 期～ 期間をかけ生まれ変わる

